

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「知・徳・体」のバランスがとれた生徒を育み「絆」を大切にする学校
1 わかる喜びや達成感を味わわせ、社会を生き抜くための「豊かな学び」(「知」)を定着させ、進路実現を図る。 2 やさしさを基盤に厳しく粘り強い生徒指導を展開し、規範意識を高めるとともに基本的な生活習慣の確立に努め、豊かな人間性(「徳」)を醸成する。 3 健康で安全な社会生活が営めるよう、健全な心身(「体」)をはぐくむ。 4 生徒と生徒、生徒と教職員、教職員と保護者、そして地域や中学校との連携を強化(「絆」)する。

2 中期的目標

社会の一員として自信を持って生きていける自立した人づくり
1 社会を生き抜くための「豊かな学び」の推進 (1) 新学習指導要領を踏まえ、わかる授業を展開し、社会で生き抜くことのできる学力を身につけさせる。 ア 教材や指導法の工夫を図り、基礎的・基本的な学力を定着させるとともに、充実した言語活動を展開する。 イ 授業公開・研究授業・授業研究・授業アンケート等を活用し、積極的に授業改善を図る。 ウ 外部から専門家等を招き講義・講演や体験的授業を積極的に展開するとともに、授業研究を行う。 エ 学校図書館を活用し、生徒の読書習慣を確立する。 *他校の若手教員との合同研修を企画・実施する。また、学校教育自己診断で「パソコンやDVDなどの視聴覚機器を用いた授業が多い」が70%をめざす。
2 基本的な生活習慣の確立及び規範意識・健全な心身の育成 (1) 社会人として自立し、社会の一員として生きていけるよう基本的な生活習慣と規範意識を身につけさせる。 ア あらゆる教育活動において規範意識の醸成を図り、中学校との連携を強め、きめ細かい温かみのある生徒指導を徹底する。 イ 基本的な生活習慣が確立できるように、あいさつの励行、欠席・遅刻等の指導を徹底する。 ウ 社会の一員として生きていけるよう長期休暇や「総合的な学習の時間」・LHR等を活用し、キャリア教育や志学を効果的に展開する。 *38期生の3年次1学期における生徒一人当たりの欠席数を2年次1学期と比較して10%減にする。また、3年生の希望進路実現率は前年度に引き続き100%をめざす。 (2) 美しい学校環境、安全安心な学校づくりをとおして、生徒が健康で明朗に活動できる場を提供する。 ア 引き続き校舎内外の環境美化に努め、生徒の心身の健康に寄与する。 イ 愛着障がい等に着目した大学研究者との共同研究を実施。分析結果をもとに全教員に研修を行いフィードバックし、生徒への支援強化を図る。 *愛着障がい等に着目した大学研究者との共同研究を実施し分析結果をもとに教員研修を開催する。
3 生徒・保護者・中学・地域と相互の「絆」の強化 (1) 生徒・保護者と緊密な関係を築き、生徒への指導と支援を行う。また、保護者や卒業生、中学生や地域の方々の理解と支援を得るため、連携を深めるとともに広報活動の充実を図る。 ア 日常的に家庭との連絡を密にし、保護者との連携により生徒の指導や支援に取り組む。 イ 部活動や行事等での交流、授業の相互見学などの実践により、小中学校との相互連携を深める。 ウ ホームページ等を活用してPR活動を積極的に行う。 *環境フェスタ(春のみ実施)、スポーツフェスタ等の対外行事の維持(一部は今年度で終了)。また、HPのアクセス数を16000回以上をめざす。
4 再編整備を見越した学校経営の効率化 (1) 校内体制を整備して再編整備事業を推進し、事業を成就させる。 ア 再編整備に伴い閉校記念事業に係る委員会を立ち上げ、閉校記念事業を企画、推進する。 イ 校内物品等の廃棄及び移管計画を作成し、計画的に作業を進める。 *再編整備に伴い閉校記念事業に係る委員会を立ち上げ、閉校記念事業計画を作成する。また、校内物品等の廃棄及び移管に関するリストを作成する。 (2) ICTを有効に活用して情報の共有化を進め、業務の効率化を図る。 ア 教育活動や業務の効率化・ICT化を促進する。教職員の事務業務時間を減らし生徒と関わる時間を確保する。 イ 複数の分掌や学年で作成・管理していた生徒情報について一元化を図り、教職員全員が情報を共有できる環境をつくる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
*実施方法 生徒へは12月の期末考査5日目(12/7)に実施し、ほぼ全員から回収した。(95.3%長欠者を除きほぼ回収:昨年は85.4%) 保護者には12月中旬にアンケート用紙を封筒に入れ、生徒を介して配付・回収した。 (一昨年:32.5%、昨年:41.1%、⇒今年:38.5%) 昨年度の平均値と比較するが、今年度1年生が在籍がないため、平均値だけ比較するとその影響がある。しかし、2・3年生のみで、数値を比較するとほぼ昨年度と同様で、各項目も大きな数値の変化はなかった。 1 「学校へ行くのが楽しい」について 55%の生徒が楽しいと感じている。2年生は、毎年の傾向で、1年から2年になると数値が低くなるが、やはり11%低下している。3年生は、9%上昇。 1年生がいない分、全体が低下したのではないだろうか。 12 「自分の進路について考える学習がある」について 本年度は、肯定的な意見は84%であった。昨年度の75%と比較すると9%のアップであった。しかし、1年生の昨年の肯定的な数値は、56%であり2・3年生の平均と比較すると全く同じ85%であった。	第1回学校協議会 6月26日(月) ●委員からの質問・意見 ・閉校に関わって生徒たちのマインドに変化はないか。 ・次年度の体育大会や文化祭の行事をどのように運営していくのか。 ●委員長まとめ ・1学年減ると学校が静かで寂しさを感じたが、2年生が積極的に授業を受けている姿を見て安心した。教員数は減少しているが教育の質の低下がないようお願いする。 第2回学校協議会 10月25日(水) ●委員からの質問・意見 ・就職内定までの進路指導、大学進学後に進路変更する学生について ・再編整備に係り新校の準備状況について ・来年度、教員数が減ると思われるが、選択授業・学校行事など教育環境は維持できそうか。 ●委員長まとめ ・3年生の進路決定も順調に進んでいるようで安心した。今後、1学年だけになるが生徒たちに寂しさを感じさせようをお願いしたい。 第3回学校協議会 2月5日(月) ●委員からの質問・意見 ・授業アンケートの報告。前期と後期を比較して後期の数値があがっており、全般的に高い数値である。否定的意見の生徒が9パーセント程度いるが、この生徒たちの欠席・遅刻や進路決定率の相関など分析してみたい。 ・学校教育自己診断において「学校へ行くのが楽しい」という項目が10%低くなっているが、昨年の3年生がきわめて高い数値でありその旧3年生が抜けることにより単純に数値が低くなったのではないか。 ・新校淀川清流高校の情報提供 ●委員長まとめ ・来年度生徒が1学年だけになるが生徒たちがさびしい思いをしないよう頑張っていたいただきたい。

府立西淀川高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 社会を生き抜くための「豊かな学び」の推進	(1)わかる授業の展開、社会で生き抜くことのできる学力 ア 教材の工夫を図り、基礎的・基本的な学力の定着 イ 授業公開・研究授業・授業アンケート等を活用した授業改善 ウ 外部専門家等による講義・講演・授業研究 エ 生徒の読書習慣の確立	ア・生徒の実態に応じたプリント教材を作成し、学び直しを含む基礎学力の充実を図る。 ・ICT等機器を活用した授業づくりを深化させる。 イ・他校と合同の授業研究を企画・実施し、若手教員の交流、情報交換を通して、授業力の向上をめざす。 ウ・学校外から教育関係者を招聘し授業研究に取組む。また、人権、歴史、法律等の社会で必要な知識を学ぶための学校外講師による講演等を実施する。 エ・読書推進週間を設定、読書活動を推進する。	ア・学校教育自己診断で「パソコンやDVDなどの視聴覚機器を用いた授業が多い」が70%（前年度67%） イ・他校の若手教員との合同研修を企画実施。 ウ・外部専門家等を招聘して授業研究を3回以上（前年度3回）。 エ・図書館利用生徒の割合を全校生徒の50%以上。	ア・各教科とも視聴覚機器を有効活用したか。「パソコンやDVDなどの視聴覚機器を用いた授業が多い」62%（昨年64%） （○） イ・2学期に豊中高校で行われた若手教員研修に3名が参加。他にも淀中学校・出来島小学校等の授業交換見学。（○） ウ・2学期2回・3学期1回、和歌山大学准教授が授業観察。（○） エ・図書館利用生徒の割合は全校生徒の78% （○）
2 基本的な生活習慣の確立及び規範意識・健全な心身の育成	(1)基本的生活習慣の確立と規範意識の定着 ア 規範意識の醸成、中学校との連携強化、きめ細かい温かみのある生徒指導の徹底 イ あいさつの励行、欠席・遅刻等の指導の徹底 ウ キャリア教育や志学の展開 (2)美しい学校環境、安全安心な学校づくり イ 大学専門員との共同研究、分析結果のフィードバック	(1) ア・教育相談や生徒の発達といった広範な内容を含む生徒指導に係る職員研修を実施し、生徒とのかかわりを深める糧とする。 イ・毎朝、教員が交替で校門での登校指導の取組を行う。また、定期的に『遅刻0週間』指導を行うとともに、欠席・遅刻の多い生徒については家庭連絡を徹底し、保護者の指導を要請する。 ・4月、9月、1月を「あいさつ月間」とする。 ウ・3年間を俯瞰したキャリア教育の取組を推進し、仕事の意識を高め就労意欲をもたせるための取組を積極的に取入れ生徒の進路希望実現をめざす。 (2) イ・「愛着障がい」等に着目した大学専門員との共同研究を実施。分析結果をもとに教員研修を行い生徒への支援強化を図る。	(1) ア・生徒の実態や教職員のニーズ合わせた職員研修の実施年間4回以上（前年度4回） イ・38期生の3年次1学期における生徒一人当たりの欠席日数を2年次1学期と比較して10%減。 ウ・3年生の希望進路実現率100%維持。 ・2年生へのキャリア教育を強化するために、就職支援コーディネータによる個人面接を2年生全員へ実施。 (2) イ・「愛着障がい」等に着目した大学研究者との共同研究を実施し分析結果をもとに教員研修を開催。	(1) ア・大学等から専門家を招いて「心理検査について」、「LGBT'sについて」「発達課題のある生徒への対応」「愛着障がいについて」「トランスジェンダーについて」の5研修を開催。他校からも多くの教員が参加した。また福祉との連携を知る意味合いから「支援センターしらさぎ」「子どもライフサポートセンター」「大阪障害者能力開発校」の視察を職員フィールドとワークとして実施した。校内研修として教職員が講師となり「外国人登録制度について」等を8回行った。（○） イ・2年次8.80日が3年次5.04日で32%減。（○） ウ・希望進路実現率100%達成。 ・就職支援コーディネータによる2年生個人面接を全員へ実施。（○） (2) イ・アンケートを実施。「愛着障がい」等に関わる教員研修を11月に実施。十分に親の愛情を受けてこなかった生徒が本校教職員の丁寧な対応・指導で大人への信頼を回復している傾向がアンケート結果から分かったと関西福祉科学大学大学院教授が分析された。（○）
3 生徒・保護者・中学・地域との「絆」の強化	(1)生徒・保護者と緊密な関係構築。広報活動の充実 イ 小中学校との相互連携 ウ ホームページ、PR活動	イ・周辺の小・中学校を中心に部活動や行事等での交流、授業の相互見学などの実践により、校種をこえた相互連携をさらに深める。 ウ・広報活動に取組み、地域・中学校から本校の教育活動についての理解をえる。	イ・環境フェスタ（春のみ実施）、スポーツフェスタ等の対外行事の維持（一部は今年度で終了）。 ウ・HPのアクセス数を前年度数を維持。	イ・春の環境フェスタや部活動交流等の行事での本校への地域・中学生の来校者数は350名、淀中での出前授業、出来島保・歌島保幼児、出来島小児童への交流授業を実施。出来島小学校夕涼み会、西淀川区区民祭り等にエコ部生徒を中心に参加。（○） ウ・ホームページ更新は169回、ホームページへのアクセス数20062回（3月20日現在・昨年末19780回）（○）
4 学校経営の効率化	(1)校内体制整備と再編整備事業推進 ア 閉校記念事業の企画、推進 イ 校内物品等の廃棄及び移管計画の作成	ア・再編整備に伴い閉校記念事業に係る委員会を立ち上げ、閉校記念事業を企画、推進する。 イ・校内物品等の廃棄及び移管計画を作成し、計画的に作業を進める。	ア・再編整備に伴い閉校記念事業に係る委員会を立ち上げ、閉校記念事業計画を作成。 イ・校内物品等の廃棄及び移管に関するリストを作成。	ア・閉校記念事業委員会を設置（教頭・事務長・首席・教諭6名の計9名）し、記念誌製作進行（業者決定）・原稿依頼等を実行した。（○） イ・校内物品等の廃棄及び移管に関するリスト完成。7・12月の2回の内覧会を実施。府立学校での物品の有効活用を進めている。（○）